

アーティストからのコメント

ポートで見る



アーティスト

平良 亜弥



転がるチャンキーボールを追いかける子、巨大透明ボールにあわせてハンドベルを奏でる子、暗がりに怖さを感じたり、布くらげと色空間の中で踊る子。素材や音に加え、光や影の世界を新しく取り入れたことで、さらにそれぞれの反応が重なって、丸から生まれるいくつものストーリーが生まれた2年目でした。ベイビーたちと思いっきり楽しめる空間はどんなものか試行錯誤しているとき、心が動く空間が成り立つ瞬間があって、それは魔法にかかったような感覚でした。場の空気を一瞬に変化させる魔法使いのようなベイビーたちと楽しめる時間・空間・関係性を考えることは、自由になるための魔法を探す旅だと感じています。来年はどんな魔法に出会えるのか、楽しみです☆

アーティスト

津波 博美



2年目のベイビーシアター、音、光、肌触りなど「聴覚」「視覚」「触覚」を刺激する内容になったかと思います。真っ暗になった時の反応は、小さい子が思ったより平気で、大きい子は怖がって泣いちゃう、これも成長のあらわれなんだなと実感しました。ワークショップは動きの真似っこからスタート、赤ちゃんの動きを真似てみたり、子どもの表情や動きに注目できたのではないか？大人もへんてこな格好になって、恥ずかしさを取り除き、もっと自由になれる空間になったと思います。2年目はスタッフやサポートーさん達との信頼関係もできて、とても安心して制作に集中できました。次は「味覚」「嗅覚」も入ってくるのかな？みんなでピクニックとかやっちゃう？またね～。

造形

山内 盛彰



子どもの目線に合わせて、
共に楽しむ素材の感触、音、
動き。遊びを通して学び、ま
たそこから生み出される新
しい遊び。ドキドキワクワク、
笑顔いっぱい、素敵な時間
をありがとうございました。

音楽

古謝 麻耶子



鮮やかな色のセロハン、光
や影に大人も、あかちゃんも
惹きつけられ、無我夢中で
遊んだ瞬間がありました。そ
こに手に持っていた楽器の
音が溶けていった時の心地
よさが忘れられません。

身体表現

岩木 桃子



赤ちゃんのいる世界は自由であったかい。大きい人たちも、その世界にお邪魔して光と影、色と音で一緒に遊びました。暗がりの中に親子の優しい光が灯る瞬間が美しかったです。



なはーと
ベイビーシアター
プロジェクト

アーティスト：平良亜弥、津波博美 / 造形：山内盛彰 / 音楽：古謝麻耶子 / 身体表現：岩木桃子 / 音楽サポート：犬塚拓一郎、普久原朝史 / サポーター：安谷屋美咲、那覇市ファミリーサポートセンター / 出演：ワークショップ参加者のみなさん / 記録写真・テキスト：安田麻衣子 / 記録映像：スタジオニュー城（ディレクター：土屋昌徳、シネマトグラファー東洋一、仲程孝一）/ アーティスト向け講座：羽地知香 / おでかけ編アーティスト：久場麗美、平岡昌也 / 広報物デザイン：久場麗美 / 事務局：普久原絵里子・本多まだか（NPO法人1万人井戸端会議）/ 那覇文化芸術劇場なはーと：平岡あみ、小堀紘央 / 主催：那覇市 / 企画制作：那覇文化芸術劇場なはーと、NPO法人1万人井戸端会議 / 助成：文化庁文化芸術振興費補助金（地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業）/ 独立行政法人日本芸術文化振興会

発行日：2026年1月

アーティスト向けレクチャー

5
24

発達にあわせた 親子で楽しむワークショップ



バムちゃんこと、沖縄女子短期大学講師の羽地知香さんをお迎えして、今年のベイビーシアタープロジェクトに関わるアーティストの皆さんを対象としたワークショップを実施しました。あかちゃんは発達の段階によって、世界のとらえ方が異なること、それに合わせて遊びを考える重要さを学びました。また、実際に画用紙や花紙をつかったワークも実験しました。

おでかけワークショップ

7
25

①カラーセロハンであそぼう



協力 子育て支援センターすまいる

アーティスト 久場麗美

内容 カラフルなセロハンを使って、耳元で丸めて音を聞いたり、細かくして雪のように降らせたり…。最後には、段ボールやセロハンテープと合わせて、蝶々の羽が完成しました！

参加者の声 丸めたり、顔にくっつけて色の世界を楽しんだり…遊びの幅が広がりました！

8
23

②みんなのかたち



協力 子育て支援センターはっぴい

アーティスト 津波博美・平良亜弥

内容 柔らかい布やひも、軍手、音のなる鈴やマラカスをつかって、自由に遊びました。ひもや布をつなげて大きくすれば、みんなが入る大きさに！まずはおとなが楽しめます。

参加者の声 おとなが遊んでいるようすを一生懸命、目で追っていたのが印象的でした。

9
19

③いろんな紙であそぼう



協力 子育て支援センターうえぱるーむ

アーティスト 平岡昌也

内容 新聞紙や柔らかい紙を使って、みんなでお気に入りの遊びを探しました。あかちゃんにとって心地よいこと、苦手なことをじっくり感じてもらう時間です。

参加者の声 たくさんの紙を前に、マスキングテープに夢中なわが子。意外な好みを知りました。

ベイビーシアターをつくるワークショップ 「みんなのかたち モーイモーイあしひー」

10
25

①1回目



11
1

②2回目



11
8

③3回目



11
16

④おひろめ会



場所 那覇文化芸術劇場なはーと 小スタジオ

アーティスト 平良亜弥、津波博美、山内盛彰、古謝麻也子、岩木桃子

内容 4回連続のプログラムをなはーとの小スタジオで開催。あかちゃんもおとなも五感をつかって、アーティストが考えた、音・光・さまざまな素材・体の動きをあじわう遊びに挑戦しました。心地いいな、あらびっくり！、ちょっと怖いな、わくわくする……色々な気持ちが混ぜこぜになった不思議な空間が、毎回なはーとで立ち上ります。4回目のおひろめ会では、5組の新しい観客を迎え入れ、今までのワークショップでのあそびを積み重ねながら、そこにいる全員が出演者となって、ひとつの作品が浮かび上りました。各回2時間と、あかちゃんを対象としたプログラムとしては時間をたっぷりと使い、さらに終了後には1時間ほど、場所を開放して自由に過ごしてよい時間を設けました。あかちゃん自身の気分や体調にあわせて、保護者もあせることなく参加できることがねらいです。また、連続して同じ場所、同じ参加者で行うこと、多くのサポーターによって安全管理をすることで、あかちゃんもおとなも安心して参加する環境をつくりました。リラックスすることで、自分自身の五感と向き合い、さらにはあかちゃんから見える世界を想像する余白が生まれます。

参加者の声

「家だと動画をみせたり、おもちゃで遊ばせたり。ここでは親子で同じ経験をしたり、一緒にになって楽しんで遊ぶことができました」「あかちゃんの動きに注目する時間は、普段はなかなか取れない貴重な時間だった」「心と体がつながっているのがわかった」「普段なら少し恥ずかしいことも、やってみると平気で、楽しかった」「子どもはずっと寝ていたけど、私自身が周りの人とかかわって楽しむことができた」「周りの明るいさや、自分の体の状態で音の変化を感じられた」「大きい音や暗い場所は、あかちゃんは怖がると思っていたけれど、意外にも変化を楽しんでいた」